

ま え が き

農林水産政策研究所は、平成13年度から15年度までの間、「環境・資源制約下における世界食料需給の予測手法精緻化に関する研究」を研究課題として担うこととなった。

このため、当政策研究所では、主に諸外国の農業・農業政策を研究対象とする研究員で構成するプロジェクト研究チームを発足させるとともに、本課題に関する外部有識者にも客員研究員としての研究を委嘱しているほか、他の試験研究機関等とも連携協力しながら、研究課題に取り組んでいるところである。

我が国においては、国内の農業生産を基本とし、これと輸入と備蓄を適切に組み合わせることにより、国民に対する食料の安定供給を図っていくことが重要な課題となっているが、本研究は、環境・資源制約要因を反映したより精緻な世界食料需給予測モデルの開発を行い、これを通じ、国民に対する食料の安定供給の確保を図るための施策の推進に資することを目的として実施しているものである。

本研究は、以下の二つの課題から構成されている。

課題1は「環境・資源制約要因を考慮した世界食料需給モデルの開発」であり、環境・資源制約要因を反映したより精緻な世界食料需給予測モデルの開発に向け、モデル構造の理論的検討、データ加工・プログラミングを中心としたモデルの開発、開発されたモデルによる予測を行うものである。

課題2は、「世界の主要地域における環境・資源制約要因を考慮した食料の潜在生産力に関する研究」であり、農業・食料生産に影響を及ぼす環境・資源制約要因の態様は地域的に様々であることから、世界の主要地域（国）について、農業・食料生産に影響を及ぼす環境・資源制約要因を考慮した食料の潜在生産力に関する分析をカントリースタディーとして行うものである。

課題1については、平成13年度は、モデルの既往成果のサーベイ、データの利用可能性の検討のほか、中国の米、トウモロコシ等を対象に地域別にディスアグリゲートした需給分析に取り組んだ。平成14年度は、水、土地等が食料需給予測に与える影響の分析のほか、既存の分析ツールを利用した環境・資源制約問題に係るシナリオ分析を行っている。

また、課題2については、平成13年度は、中国、インドネシア、ブラジル、旧ソ連地域に係るカントリー・スタディを行った。平成14年度は、南アジア地域、水資源の制約度が高い中国・内蒙古及びモンゴル等に係るカントリースタディーも行っている。

本報告は、本研究の課題2における中国に関するカントリースタディーの成果を研究資料として、白石和良主任研究官がとりまとめたものである。読者それぞれの目的に応じて活用していただければ幸いである。

平成14年12月

農林水産省農林水産政策研究所
世界食料需給プロジェクト研究チーム